◉特集

今日は本を読もう

読書のススメ

最近、本を読んでいますか。「忙しくて読書する暇なんてない」という人もいるかもしれません。でもそんな時こそ、本を開いて泣いたり笑ったり、ホッと一息つくことができる時間も大切。秋の夜長を迎えるこれからの季節、久しぶりに読書を始めてみませんか。

読書離れの現実

近年、社会的な傾向として、深く考える力や思いを言葉で伝える力の低下が指摘されています。その要因の一つと考えられているのが「読書離れ」。表のように、平成18年の1年間に「趣味としての読書」を行った人（10歳以上）は約40㌫。頻度は「月1日」が最も多く、2割近くを占めます。

町内の状況をみると、図書館の利用割合が多いのは18歳以下と60歳以上。利用者数は季節によって変動はあるものの、1日平均約120人で、この5年間はほぼ横ばいの状態です。

このような中、国は2010年を「子ども読書年」、2010を「国民読書年」と定め、国を挙げて読書推進に取り組んでいます。

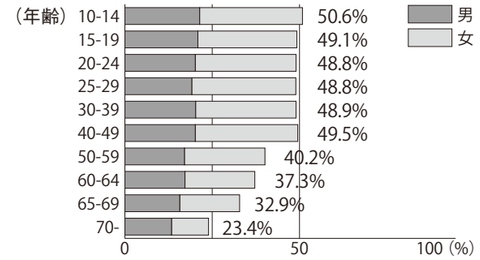
魅力と可能性に満ちた読書

読書は思考力や表現力、コミュニケーション力などを育み、個人が自立しつつ、他者との関わりを築きながら豊かな人生を生きる基盤を形成するもの。私たちにさまざまな感動と、生きる力を与えてくれます。東日本大震災の被災地では、避難所で共有された本が子どもたちをはじめ多くの人々の心を癒し、元気づけたと伝えられています。

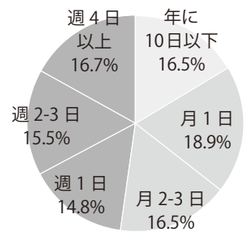
10月27日～11月9日は「読書週間」。これを機に今日から読書、始めませんか。

データで見る「読書」の現状

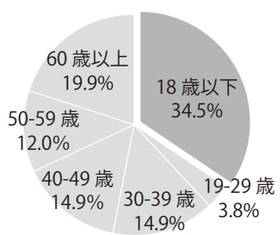
1 1年間に「趣味としての読書」を行った人（18年）



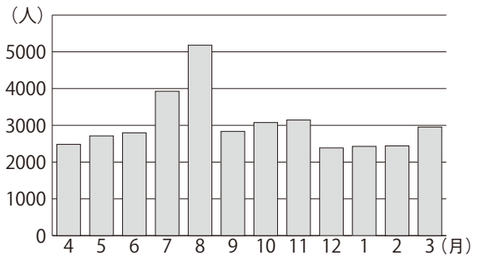
2 「趣味としての読書」の頻度（18年）



3 内子町図書情報館利用者の年齢別割合（23年度）



4 内子町図書情報館の月別利用者数（23年度）



［出典：1 2 総務省「社会生活基本調査」、3 4 内子町図書情報館調べ］

内子町図書情報館　上田静子（しずこ）館長

人生を豊かにしてくれる読書
子どものころから親しみ
生涯を通じて楽しんでほしい

1990年代の10年間に子どもたちの「読書離れ」が急速に進んだといわれています。ある調査では高校生の70㌫、中学生の55㌫が「1カ月に1冊も本を読まない」と回答しました。科学技術が進歩してテレビ、ビデオ、インターネット、携帯電話などが使われるようになり、本が次第に読まれなくなってきたのです。

便利で新しい物には誰でも飛びつきます。しかし本には、これら新しいメディアにはない優れた長所があります。それは、読書をすることによって言葉が豊かになり、考える力が身につくということです。最近の脳科学の研究によると、コンピューターゲームをしている時よりも読書をしている時の方が、はるかに脳が活発に活動していることが分かっています。

国立教育政策研究所総括研究官・有本秀文（ひでふみ）さんが著した『子どもが本好きになる七つの法則』（主婦の友社）によると、「本を読んでいると、こんなに多くの幸せが舞い降りてくる」そうです。

①集中力が育つ②記憶力が育つ③考える力が育つ④他人の気持ちが分かるようになる⑤他人の迷惑が分かる人間に育つ⑥自己中心にならない⑦想像力が育つ⑧他人の考えが理解できる⑨井の中の蛙（かわず）から抜け出られる⑩成功への近道が分かる⑪語彙（ごい）力が育つ⑫まともな文章が書ける⑬学ぶことに対する意欲がわいてくる⑭芸術的な感性が育つ⑮道徳力が育つ⑯欲望に歯止めがかかる⑰困難な課題を解決できる⑱一流の人間になれる。

子どもたちに読書の良さを知ってもらい、たくさん本を読んでもらいたいとの願いから、2000年を「子ども読書年」とすることが定められました。内子町でも「子ども読書活動推進計画」を策定し、取り組みを進めています。小さいころから読書に親しむことで、自然に読書の習慣も身についていくことでしょう。

また高齢になると、読書好きな人であっても「目が疲れる」などの理由で遠ざかってしまうことがあります。図書情報館では文字が大きくて見やすい大活字本などもそろえていますので、ぜひご活用ください。

読書は私たちに、さまざまな知識や新しい発見、たくさんの感動を与えてくれます。生涯を通じて読書を楽しみ、人生をより豊かなものにしていきましょう。

内子中学校の朝読書

「朝読書」を推進

学校図書館委員長
大森たけ子教諭

町内の小・中学校の多くでは、「朝読書」に取り組んでいます。国語力をつけ学力アップにつなげるとともに、読書を通じて人の心を理解し、コミュニケーション力を高めることがねらいです。内子中学校でも今春から毎日、全クラスで10分間の朝読書を実施。朝、静かに本を読むことで、心を落ち着けて1日をスタートすることができ、また図書室の利用が大幅に増えるなどの効果が現れています。

出会いを共有する読書会

幅広い本と出会い、刺激しあう楽しさ

あざみ読書会

昭和56年に発足し、30年余りの歴史を持つ「あざみ読書会」（松岡絹子代表、会員13人）。愛媛県読書グループ連絡協議会を通して年４回・３種類ずつ図書の貸し出しを受け、毎月開く定例会で互いの意見や感想を交換しあっています。「自分で本を選ぶと、どうしても好きなジャンルに偏りがち。でも読書会では、普段は手に取らないような本を読むことができる。人それぞれに捉え方や感じ方も異なり、たくさんの“気付き”を得られるのが醍醐味」とメンバーの皆さん。定例会の後は毎回欠かさず会報を発行し、思いを共有しています。「本の世界を飛び出し、日常の話題や悩みなどを相談し合うこともしばしば。支え合い、刺激し合えるから、ずっと楽しく続けられる」と話しています。

今どきの読書のカタチ

自宅で買える 読みたいときに読める 便利なＷＥＢを活用

沖野武志さん（40）＝柿原＝

中国の古典が好きで、読むだけでなく収集もしているという沖野さん。古いものは絶版になっていることも多く、そんな時はインターネット・オークションなどを活用して探しています。また最近はタブレット型コンピューターの「ｉｐａｄ」を使い、電子書籍も利用。「思っていたよりも読みやすく、いつでも読めて本が傷まないのがいい。金額的にも紙の本より安く自宅で購入できる点や、ページを自由に拡大でき、写真などの細かい部分もよく見える点が便利」と使い勝手の良さを語ります。今後さらに需要の増加が見込まれる、新しい読書スタイルです。

五十崎自治センター
☎０８９３（４３）１２２１
休館日：祝日、年末年始

小田自治センター
☎０８９２（５２）３１１７
休館日：月曜日、年末年始

読みたい本がきっとあるみんなの図書館

内子町図書情報館
☎０８９３（４４）４１９８
http://www.town.uchiko.ehime.jp/library/
休館日：月曜日、月末整理日、年末年始
特別整理期間（年２週間以内）
蔵書数：約６万7,000冊

BOOKSTART

初めての本との出会い
「ブックスタート」

絵本を開く楽しい体験と一緒に絵本を贈る「ブックスタート」。内子町は、絵本を介して赤ちゃんと保護者が心触れ合うひとときを持つきっかけづくりとして、７歳児健診に合わせて実施しています。

としょかんQ&A

Q 誰でも利用できるの？

Ⓐ 内子町に在住または通勤・通学している人、隣接する市町に住む人であれば、誰でも利用できます。図書館の利用および貸し出しは、無料です。

Q 貸し出しは何冊まで？

Ⓐ 本・紙芝居は１人５点まで、雑誌（最新号を除く）は２点まで、ＣＤ・ＤＶＤは１点までです。貸出期間は、本・紙芝居は２週間、その他は１週間です。

Q 読みたい本がない時は？

Ⓐ 蔵書はインターネットで検索することができ、貸し出し中の場合は予約することもできます。またリクエストも受け付けています。

Q カードをなくした時は？

Ⓐ 内子町図書情報館の利用者カードは24年３月から新しくなりました。紛失した場合は、有料で再発行します。なお従来のカードの使用期限は25年３月31日までです。

本と出会う場所

国内だけで年間７万点余りの新刊が出版されている現在。お気に入りの一冊との出会いは、ひとつの奇跡ともいえます。出会いの場所はさまざま。自分に合った方法で特別な一冊を見つけてください。

わたしの一冊

本を読んで、日常のヒントを得たり、刺激を受けたりすることは多いもの。時には一冊の本との出会いが人生を変えるきっかけとなることもあります。元気が出る一冊。毎日が楽しくなる一冊。人生の教科書のような一冊。それぞれに思い入れのある一冊を紹介してもらいました。

司馬文学と出会い
読書に目覚めた
廿日市読書会
玉木鷹行（たかゆき）さん（85）
＝内子17＝

読書三昧（ざんまい）の原点となった一冊

私が読書の面白さを知ったのは小学生のとき。『少年倶楽部（くらぶ）』の新刊がでるたびに先生が朗読してくれる『怪人二十面相』に心躍らせたのがきっかけでした。その後、子育ても一段落し生活にゆとりができたころ、司馬文学に出会い読書に目覚めました。これまでに読破した本は1,000冊以上。時間があったら本を読み、退屈する暇がありません。80歳を超えた今も、読書を通して多くのことを学び、感動を味わっています。

『歴史のなかの邂逅（かいこう）』
司馬遼太郎／著
その人の生の輝きが、時代の扉を押し開けた……。歴史上の人物の魅力を発掘した文章を時代順に集大成。1では古代の倭人から豊臣秀吉までを収録

本の中の世界で
遊ぶのが楽しみ
せせらぎ読書会
森井玲子（れいこ）さん（72）
＝森＝

ずっと人生のそばにある一冊

私の思い出の一冊は、中学生のときに姉が買ってくれた『星の王子さま』。岩波少年文庫の初版本で、今も大切に持っています。その後ギリシャ神話を読んで星座に興味を持ち、学生時代は外国文学ばかり読んでいました。大人になってからも、この本の原書を手にしたり、旅先でお話の中の風景を探したり、ずっと心の片隅にあります。

最近はジャンルを問わず何でも読んでいます。本の中の知らない世界で遊ぶのが楽しみです。

『星の王子さま』
サン＝テグジュペリ／著
飛行機の故障で砂漠に不時着した僕は不思議な男の子と出会った。その子は、よその星から来た王子さまだった。王子さまがいろいろな星で出会った大人たちとは……

読書を通して
生涯勉強
愛炭企業組合
上田誠治（せいじ）さん（51）
＝内子７＝

親と子の絆を見つめ直す一冊

私自身が親子関係で悩んでいたときに、偶然この『父と子の旅路』に出会い、こみ上げるものを抑えきれないほど感動しました。親が子を思う気持ちはどこまでも深いもの。特別な大きいことよりも、家庭の中、日常の小さなことが尊いのだと気付かされます。親子の絆や家族の愛をいま一度問い直す、親にも子にも読んでほしい一冊です。

人間はいくつになっても勉強。良い本は、本当に人の心に届くと私は思います。

『父と子の旅路』
小杉健治／著
弁護士の浅利祐介は、両親を惨殺した死刑囚の再審担当を命じられる。その死刑囚は祐介の行く末をことの他案じていた。それが何を意味するのか。驚倒の事実が……

読書は仕事の糧
愛媛ゴルフクラブ
料理長
岩城俊博（としひろ）さん（45）
＝松尾＝

料理人生の基礎を築いた一冊

大阪で日本料理の修業を始めたころ、献立に書かれた料理さえ分からなくて頭を抱えていたときに、伯父が全６巻の『現代日本料理技術事典』を贈ってくれました。伯父は愛媛県内で初めて高校に調理科を設置した人物。この本は自分にとって、日本料理の基礎を学んだ教科書ともいえる一冊です。

最近はさまざまな情報紙に目を通し、新しいもの、はやりの料理などをチェック。仕事のためにも読書は欠かせません。

『現代日本料理技術事典』
安部孤柳／編
日本料理の基礎、専門的な技術、調理法、献立作成など幅広い知識を網羅したプロ向けの料理書。日本料理の料理人に必要なあらゆる知識を収録。全６巻

読書の楽しさ
子どもにも伝えたい
竹本由紀（ゆき）さん（32）
心南（ここな）ちゃん（5）
＝上村＝

わが子にも読んでほしい一冊

小学生のときに初めて読み、今でも大好きな本があります。それは絵本の『100万回生きたねこ』。自分の子どもたちにも読んでほしい一冊です。子どもは今、小学２年生と幼稚園児ですが、兄が学校でよく読書をするようになってから、妹も１日１冊を目標に絵本を読むようになりました。子どもには、たくさんの本を読んで、いろいろな世界を知ってほしい。そして私が出会ったように、ずっと心に残る一冊を見つけてほしいです。

『100万回生きたねこ』
佐野洋子／作・絵
100万回生まれかわっては死んでゆく猫。飼い主たちは猫の死をひどく悲しんだが、猫は死ぬのなんか平気だった。ある時、猫は野良猫となり、一匹の白猫に恋をする……

本から広がる世界

生きていく上で大切なものを得ることができる本。本が大好きで、「その楽しさをたくさんの人にススメたい」と語る大本悦子さんに、読書の魅力を伺いました。

読書は自分を育て、自己を確立する基礎を築いてくれる
たくさんの人に読書の楽しさ伝えたい

本好きの原点は父親の姿

私が読書好きになった原点は、父にあります。

私の実家は山奥の農家。戦後何もない時代でしたが父は本好きで、農作業の合間にごろんと横になって休みながら、いつも雑誌などを読んでいました。時々まちへ出かけると私にも少女雑誌を買ってきてくれ、それがうれしくてボロボロになるまで読んだものです。

小学生になると、図書室で本を借りて下校しながら読んだりしていました。下級生に「本の話しを聞かせて」とねだられ、お話するのも楽しかったです。いま思えば、それが現在の読み聞かせの活動などを始めるきっかけになっているのかもしれません。

読むことから書くことへ

自分の子どもや孫たちにも、ずっと読み聞かせを続けてきました。親子が一緒に同じ本を読める時期は、ほんの短い間だけ。それは子どもだけでなく親にとっても、かけがえのない大切な思い出になります。

私は子どもが言った何気ない一言を記録しておきたくて、いつも育児日記に書き留めていました。また出かける時は必ず、簡単な手紙を書いてテーブルの上に置いておきました。そんなちょっとした生活の一場面や、感動した瞬間を残したい、そう思ったのが童話を書き始めた動機です。

当時は毎日書かないと眠れないくらいで、その時々を大切に楽しみ、その時の気持ちを忘れずにいようと思っていました。

今は孫たちと一緒に、お話を作ったり、絵本を書いたりしています。また俳句や絵てがみも楽しんでいます。全て、もとは本好きから始まったこと。そこから多くの出会いが広がりました。

読書の楽しさ広げたい

私にとって、読書は生活の一部。本はたくさんのことを教えてくれて、自己を確立するための基礎を築いてくれます。

また、本の中でさまざまな世界を体験するだけでなく、私は読んだら行動したくなるタイプ。物語の舞台や場所を訪ねたり、登場人物に会いに行ったり——。もちろん実現できないこともありますが、そうして実際に自分で行動することで人生がより楽しく豊かなものになると思います。

だから子どもたちはもちろん、たくさんの人に読書の楽しさを広げたい。私もまだまだ読書を楽しみ、毎日を前向きに生き生きと過ごしていきたいです。

大本悦子（えつこ）さん（64）
＝内子18第２＝

本が大好きで、「読みかけの本がないと寂しい」という大本さん。２つの読書会や読み聞かせグループに参加。書くことも好きで童話やエッセイ、絵本なども執筆し、平成11年には作品をまとめた創作童話集を発刊。俳句や絵手紙なども楽しむ

創作童話集と、出かける際は必ず書いていた手紙